

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2016年5月9日

今月のトピックス 「市場は失望したと言うけれど・・・」

日本銀行は、2016年4月28日の金融政策決定会合（会合は正確には27日から2日間）で追加緩和を見送りました。市場は失望して円高・株安が進んだのはご承知の通りです。政策決定後の報道を見てみると、「日本銀行はいったい何を考えているんだ！」などというような怨嗟の声が多かったようですが、そもそも追加緩和に期待しすぎた側（経営者や投資家）にも責任の一端がある気がしてなりません。

今回、金融政策決定会合前から市場は前のめり気味に円安・株高が進んでいました。4月22日に米国の通信社であるブルームバーグが「日本銀行の貸出金利にマイナス金利適用」を検討していると報じたためです。日本銀行からの貸出にマイナス金利が適用されれば、金融機関は日銀からマイナス金利で資金調達ができ、2月に導入されたマイナス金利を相殺することができるからです。さらに、熊本地震が発生したことから、景気の落ち込みを防ぐためにも日本銀行は動かざるを得ない（＝追加緩和を行う）という専門家の予測は6割を超えたことも前のめりに拍車をかけたのかもしれませんが。結果は「現状維持」となり、はしごを外された形になりました。筆者は、サプライズ好き（＝市場への影響をより大きくする）の黒田総裁のことだから、市場追随型の追加緩和はないと思っていたので意外感はずいぶんありませんでした。

足元の景気は力強さを欠けていることから日本銀行が動くべきという意見もありますが、日本銀行が動く、言い換えれば追加緩和を行うだけで景気は本当に力強さを回復するのでしょうか？アベノミクスが始まって3年以上が経過しましたが、円安・株高が進み一部の企業は過去最高益更新となったものの、その割に私たちの収入が大きく増えたということはほとんど見聞きしません。むしろ、アベノミクスの恩恵が全国津々浦々まで浸透していないのが現状です。そのような状況下で日本銀行が追加緩和を行ったとしても結果はこれまでの3年間と変わらない気がします。日本銀行の金融緩和に効果がないとは言いませんが、抜本的な改革を行わない限り、私たちの生活が良くなることは難しいでしょう。日本銀行の追加緩和に期待するのではなく、政府が信念を持って動かない限り低迷状況を打破することはできないのです。

足元、相場の乱高下は避けられませんが、日本銀行が追加緩和を温存したということは、今後も政策期待が残ることになります。日本株が底割れすることはないと前向きに捉えたいと思います。日本銀行の政策は国の関与から守られていますが、衆参同時選挙の目がなくなったことから、安倍総理が掲げる「政策の総動員」をG7で世界にお披露目、衆議院解散というシナリオが先送りになったこともその背景にあると考えるのはうがった見方でしょうか・・・？